

だしと卵の風味表現

油麩井味のポテチが発売

カルビー東日本事業本部東日本支店営業4課の川村晃司課長が2月12日、市役所を訪れ、熊谷盛廣市長に「油麩井」の味を再現したポテトチップスの発売を報告しました。

油麩井味のポテトチップスは、同社の全国47都道府県「地元ならではの味」を再現するプロジェクトの一環で商品化され、3月4日から販売。かつお節としょうゆの味を中心に、だし汁のうまみと卵の風味を表現しました。川村課長は「この機会に油麩井を知ってもらいたい。登米市には、原材料となるジャガイモの契約農家もあるので、応援していきたい」と力を込めました。



東北6県と新潟、長野の計8県のスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで販売。なくなり次第販売終了となります。

過去最多5000人来場

ユネスコ遺産の水かぶり

昨年11月、ユネスコ無形文化遺産に登録された「米川の水かぶり」は2月2日、東和町米川地内で開かれ、すすを顔に付け、しめ縄の装束を身につけた男衆が、法輪山大慈寺境内の秋葉山大権現に祈願後、「ホー、ホー」と奇声を発しながら家々に水を掛け回り、火伏せをしました。

米川の水かぶりは、800年以上語り継がれてきた伝統行事です。今年はユネスコ無形文化遺産に登録されてから初めての開催。例年の3倍以上となる5千人が訪れ、写真を撮ったり火伏せのお守りになる装束のわらを抜き取ったりしていました。



来場者やカメラを構える人たちにも水しぶきが飛び、楽しそうな悲鳴や笑い声が上がっていました。

熱演で来場者を魅了

若さあふれる青年文化祭

「第14回登米市青年文化祭」(市青年団連絡協議会ほか主催)が2月17日、南方農村環境改善センターで開かれ、青年会活動で制作した作品の展示や舞台パフォーマンスなど、日頃の活動成果を披露しました。

青年文化祭は、市内の青年たちが文化活動の発表と交流を通じて、豊かな地域社会を創ることが目的。太鼓やバンド演奏、ダンス、よさこい踊りなどに、客席からたくさんの拍手が送られました。浅野憲子さん=南方町畑岡=は「友人と一緒に来ました。どの演奏や演技も大変素晴らしく、来年は孫と一緒に連れて来たいですね」と舞台を楽しんでいました。



躍動的なリズムで、迫力あるパフォーマンスを披露したGUIDANCE。出演者と観客が一体となって盛り上がりました。

豊かな自然守り抜く

動植物との共生を考える

「第10回人と野生動植物の共生を考えるつどい」は2月2日、迫公民館で開かれ、約50人が参加し、人と自然が共生する地域づくりについて理解を深めました。

基調講演では、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の嶋田哲郎さんが、伊豆沼・内沼の特徴や外来生物の駆除などの取り組みを紹介。事例発表では、とよま自然生物を考える会の西條正典さんが、北上川で実施したアカツキシロカゲロウの調査結果を発表しました。参加した高橋和恵さん=米山町山吉田=は「平筒沼の環境保全に取り組んでいるので、これからの活動の参考にしていきたいです」と話していました。



嶋田さんは「昨年、絶滅危惧種のタナゴが12年ぶりに確認された。今後も継続した環境保全活動が必要」と訴えました。

再生100万回を突破

登米無双3に英語の字幕

「『登米無双3』多言語化プロジェクト会議」は2月22、25の両日、市役所中田庁舎で開かれ、市内小中学校に勤務するALT(外国語指導助手)や市民など15人が参加し、市PR動画の英訳に挑戦しました。

会議は、再生回数100万回を突破した市PR動画第3弾「アスリート四人衆と登米市の登米師! 登米無双3トメられぬ市民の愛篇」の英語字幕を作成し、外国の人にも見てもらうことが目的。今回作成した字幕の案を基に、今後は英語字幕が入った動画の完成披露発表会の開催や、中国語、韓国語の字幕も作成し、国内外へのPRを強化していく予定です。



動画の内容を伝えるためには、どの表現が一番良いかを議論し、2日間で英語字幕の案が完成しました。

多彩なたこ冬空舞う

北上川堤防で凧あげ大会

「第56回とよま凧あげ大会」(とよまコミュニティ運営協議会主催、佐藤貞一会長)は2月3日、登米町内の北上川右岸堤防で開かれ、家族連れやたこ愛好家など約230人が参加し、たこ揚げを楽しみました。

凧あげ大会は、市民相互の親睦と親子のふれあいを深めることが目的。手作りした自慢のたこを持ち寄り、冬空を色鮮やかに彩りました。小学校低学年の部で「高くあがったで賞」を受賞した登米小1年の伊藤佑隼君=登米町新町=は「自分で作ったたこで賞がもらえたのでうれしい。来年もまた参加して今年よりも高く揚げたいです」と笑顔を見せていました。



子どもから高齢者まで世代を超えて楽しめるたこ揚げ。自慢のたこが空高く舞い上がり、歓声が飛び交っていました。